

# 令和5年度 第4回 中野市環境審議会

## (庁外検討委員会) 議事概要

日時 令和6年1月31日(水)10時00分～11時15分

場所 中野市役所 5階会議室52・53

### 【議 題】

- (1) 中野市地球温暖化防止実行計画（区域施策編）の最終案について
- (2) 中野市一般廃棄物の処理手数料について（し尿等処理手数料の改定案）

### 【事前配布資料】

資料1 中野市地球温暖化防止実行計画（区域施策編）最終案

資料2 中野市一般廃棄物の処理手数料（し尿等処理手数料）改定案

### 【欠席者】

牛山委員、江原委員、岩見委員、竹内委員

### 【議事】

議題（1）中野市地球温暖化防止実行計画（区域施策編）の最終案について  
（資料1に係る説明）

田中委員：1点目、小水力発電が栗和田で予定があるとのことだが、すでにあるのかどうか、あるとすればどの程度の規模なのか。もし発電しているのであれば計画に落とし込まないのか。もう1点、東証で取引される二酸化炭素排出量について、中野市も参加したらどうかという話を前回したが、この点についてはどうか。

事務局（市）：1点目の小水力発電の関係、現時点でまだ完成はしていない。完成予定は令和10年度を見込んでおり、完成に向けて動いている。現時点での計画内容としては、浄水場の運営について、小水力発電によって電力を賄う、残ったものはFITで買電という計画で進めている。大きさは4,993㎡と聞いている。リーポスのポテンシャル調査では小水力発電のポテンシャルはほぼなかったが、あくまで環境省の統計上の話で、実際小水力発電に向けて動きだしているのでポテンシャルはあると思っている。今後も他にできるところを検討しながら進めていきたい。

事務局（市）：東証の関係については、現時点では検討していない。

田中委員：小水力発電の発電能力は、2030年度までデータがなしで書かれている。ここに書ける数字なのか。計画書に書ける数字であれば書いた方がいいと思う。東証取引については、210くらいの参加者の中に八十二銀行が入っている。長野県内の主だった企業はほかにはないと思う。地域のために参画していると思うので、地域がそれに応えないのは残念だと思うので、検討いただきたい。

事務局（市）：栗和田の浄水場については改築の予定を立ててその中で計画しているので、発電量はまだわからない。取引の関係については、八十二銀行が入っているとのことなので研究していきたいが、実情としては難しい。

頓所委員：太陽光について、気温が38度以上になると劣化した太陽光パネルからの発火事故が起こりはじめていて、劣化した際に山火事の原因になってしまうかもしれないという懸念点と、太陽光を地面が吸収して放熱して温度を下げていますが、パネルがキャッチしてしまうと地球温暖化を増長してしまうという研究結果も出ている。中野市では設置可能な土地の6割に太陽光パネルを入れるということは、地球温暖化の増長の懸念があるものを推進するのは疑問に思う。水素の関係で、オリンピックの跡地で水素の発電をやって今年から導入している。京浜工業地帯でも水素発電の導入が始まっているので、もう少し考えてもいいと思う。大きな発電所を作らなくても発電ができる。中部電力の送電線を使ってできるかもしれないという可能性があることも聞いた。水しか出ないので、再エネだけでなくもう少し入れていただけたら。太陽光発電は危険な発電ではないかという不安があり、あまり進めてほしくない。

事務局（市）：国や県の方針に準じて進めている。劣化についての情報がまだ入っていないので、こういった貴重な意見をいただいて検討していきたい。

事務局（市）：県では太陽光の設置に関する条例が4月から施行される。定期的なメンテナンスについての報告も義務付けられているようなので、維持管理についても設置業者によって適切になされるのではないかと思う。不安をお持ちの方も多くいると思うので、事業者にもそういったことも公表するように、安心につなげるように働きかけていきたい。水素発電についてはいいご提案ではあるが課題もある。市でどこまでできるかということもあるので、他の団体と組んだ方がいいのか、民間にお願いしてやった方がいいのか、色々な可能性があるので研究していきたい。

頓所委員：検討していただいてどこかに聞いたうえでダメということであればいいが、何もないままだとさみしいかなと。

田中委員：太陽電池が危ないという話をされたが、これはシリコン太陽電池の話かと思う。時代は変わってきている。次世代太陽電池の開発が急速に進められている。2025年に積水という会社が発売するとのこと。ペロブスカイト太陽電池というらしいだが、値段が半分くらいで重さが10分の1。フィルムのところ塗るだけなので丸めることもでき、日陰でもできるし北側の斜面でもできるということで非常に話題。東京都では2025年から義務化の条例が始まるが、東京都庁の執務室に実験場を作るそうである。壁にかけたり机に乗せておけば大丈夫という安全なものになっている。ただ何年もつかはまだわからないので、すぐには発売できなくて来年から。2030年にはこれが一般化されると思う。日本人の発明家が作ったもので、原材料も国内で生産されるものなので国産のエネルギーになると期待される。

会長：壁に太陽光というのは以前も話があったがさらに発展していくと思われる。

#### 【議事】

議題（2）中野市一般廃棄物の処理手数料について（し尿等処理手数料の改定案）  
（資料2に係る説明）

佐野会長：今までの説明についてご質問、ご意見がありましたらお願いしたい。なお、今回は文言の意味についての質問をお受けすることとし、今回の質問内容についての本格的なご意見、ご質問については自宅審議を経て、次回の審議の審議会の際にお伺いしたいと考えている。文言の意味についての質問をお願いしたい。

頓所委員：長野市の人口が多いので金額が安いのは分かるが、安曇野市は人口がそんなに多くないのに、何でこんなに手数料が安いのか。

事務局（市）：長野市は補助という形で市が負担をしているということで安くなっている。補助をしている理由について、市の規模からそういうことが可能なのか、長野市に聞いたことがあるが、明確にこうという回答はなかった。安曇野市とは直接、話をしていないのでわからない。

佐野会長：安曇野市は合併した時の影響もあるのではないかと感じている。

田中委員：下水道の未接続率が14.3%と書いてあるが、やはり文化的な生活を営む上では、下水道があった方がいいと思うので、今後これを縮小する計画はあるのか。それともう

一点、県の平均ではどうなのか。それから全国で言えばどうなのか。

事務局（市）：まず未接続率についてご説明するが、下水道区域外という地域があり、その地域は下水道に接続できないので、新築で建築確認をとる場合、合併処理浄化槽を必ず設置しなさいということになっている。そして、下水道区域内でも物理的に不可能なお宅というのもあり、そういった場合は浄化槽で構わないとしている。浄化槽などが全く無くなる、つまり100%下水道に接続というのは不可能である。県や全国など細かい数字は用意していないので、その辺調べてまた次の会議の時に提示させていただきたい。

田中委員：実は私、知っているが、全県では85%、全国では80%である。それでパーセンテージから言うと、長野県は全国で10番目とのこと。非常に高い下水道率ということで、非常にご苦労されている様子が数字から受け取れる。大都市は100%に近いが、全国的にみると30%の都道府県がある。そういうことも知らずにそこへ観光に行く人も大変だろうなど。長野県は全国でみても随分頑張っていると思う。なかなかお話にくいのではないかと思ったので、質問という形でさせてもらった。

佐野会長：全国10位ということで。観光立県ということもあるので。質問がないようであれば、協議事項は以上となるが、進行を事務局の方へお返ししたいと思う。

#### ▼その他

事務局（市）：2月中旬から1か月間パブリックコメントを実施予定。大きな修正点や変更点があれば委員へお示しする予定。

協議事項（2）のし尿処理手数料改定案の次回の環境審議会の日程は、2月13日火曜日午後1時30分を予定。